



Vol.9 バンコク病院からのお知らせ（2012年11月号）

「日本出張編」

提携病院・関係者各位様

バンコク病院日本人マーケット部、田中耕太郎でございます。お世話になります。今回は10月17日から2週間日本へ営業出張した際に、感覚がすでに日本人ではない元日本人の私の目線で感じた、当たり前過ぎて日頃皆様が考えないこと(?)を中心にお知らせ致します。

1. 電車内でのマナーと遅刻について

私は高校・大学生時代に大阪で満員電車に乗らなければならなかった時に、これは私の人生でもっとも意味のない拷問であると考え、それを理由に満員電車のない海外に人生を求めたのですが、現職では数年前から弊院の宣伝と提携先医療機関様探しのため、そして顧客様探しの営業をするために日本へ出張するようになり、日本の電車に乗る必要が出てきました。今回も東京の地下鉄を中心に電車を利用して最長では東京・新神戸間を移動しました。ここでは東京の地下鉄に乗っておかしいなと感じたことを説明したいと思います。

1番目の?(はてな)ですが、何時の間に電車の中で食事する若者が増えたのでしょうか? その行為自体が非常に不衛生であり、周りの人へ配慮を全くしない若者が増えたことが私の目には非常に不愉快で奇異にうつりました。パンやハンバーガーとジュース、そしてお菓子類をまるで周りに誰もいないかのように平気で車内で物を食べている若者を見て、彼らの両親は彼らに躰をしなかったのか、人前の公共の場では飲み食いすることはよくないことだと教えていないんだ、と残念な気持ちになりました。(池上彰の「そうだったのか日本現代史」に、1970年代に銀座にマクドナルドが出来て、歩き食いがファッションになったと記載がありました。そんな昔から日本でもあったんですね・・・。)

2番目の?は、女性が電車の中で、手鏡を持って平気で化粧をしていることです。化粧は自分の興味ある人だけに見てもらうのが目的であって、他人の目は無関心であり無視。目的のその人に会う前に化粧をしているのでしょうか、私はその行為を目撃して不快感がわき、他人の迷惑になると思いました。パウダーやら濃厚な化粧の匂いが回りに拡散しているのですが、本人は至って平気のようでした。それが美人であれば、男として少しは許すかもしれませんが(?)、私の経験ではほぼ100%、美人さんではない方達が電車の中で化粧を塗りたいように思います。



(ポスターでマナー違反を告知するほど多くの人が化粧していたんですね。)

3番目に感じたことは痴漢誤認逮捕についてです。満員電車でよくある痴漢の誤認逮捕事件ですが、痴漢をされたという女性の一方向的な証言だけで何人もの無罪の方が誤認逮捕をされ、職を失うような話をニュースで聞きます。誤認逮捕後に無罪を勝ちとった方達が出版する体験談的な本を何冊か読むと、痴漢を認めれば略式で5万円の罰金刑&書類送検(?)で済むので、痴漢をしたことを認めろ、と警察官から言われるそうですね。被疑者が痴漢をしたという証拠がなく犯罪を認めない場合は警察官も簡単に被疑者を逮捕できず、その場合は時間がかかる面倒な裁判になるため、警察官は一刻も早く「罪を認めろ、認めたら家に帰宅させてやるから」、と畳み掛けるとか。

満員電車で身動き出来ない中で、痴漢をしていない、ことを証明するのは非常に難しいな、もしその女性に嘘つかれてはめられたら、自分の無罪を証明できない、と私は考えています。そこで満員電車に乗ったら私は両手でつり革を持つようにしています。痴漢行為そのものは唾棄に値する下劣な行動だと思うのですが、現在の風潮と司直の流れでは、誤認逮捕される可能性があるのも、両手でつり革持って電車に乗ってはいるので、何で両手で持つ必要があるのか?と自己嫌悪になりました。そしてますます私にとって電車は、満員電車は乗りにくい乗り物になっているな一、日本は住みにくいな一と、実感する次第です。

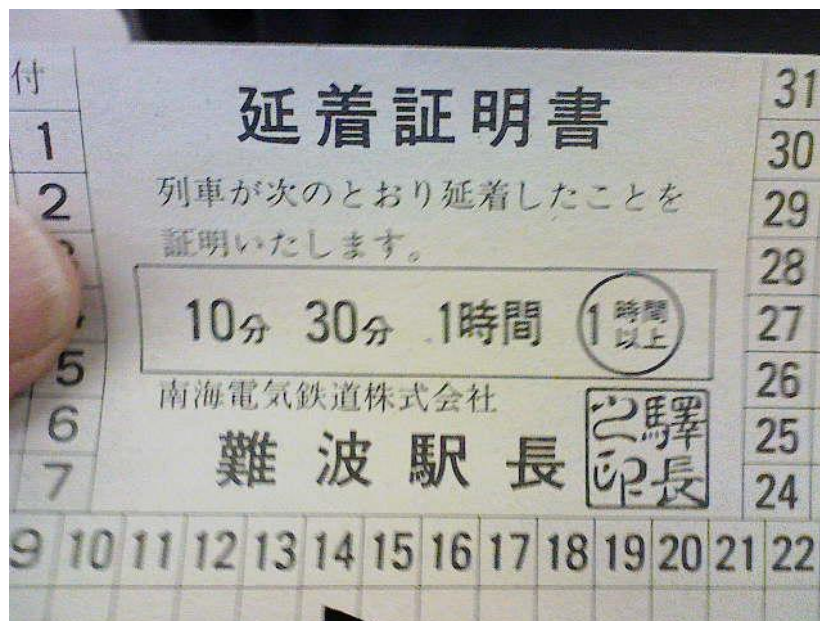


(これより日本の満員電車はまだましか・・・)

4つめの？は電車の遅延についてです。東京で電車に乗っているとほぼ2日に1度の割合で、「何時何分に〇〇で人身事故があり現在10分ほど電車が遅れております。御迷惑をおかけし申し訳ありません。」という車掌からの報告と謝罪アナウンスが何度も何度もあり、私は2つのことを感じました。

まずひとつ目は、1日100名近くが自殺する、精神的に健康ではない自殺国家日本で、私が乗っている路線でその自殺が行われたであろうこと。亡くなった方に対して、現状の苦悩を捨てて海外に逃げることは出来なかったのかと何時も思います。命さえあればどんな失敗でもいつかはリカバリーが出来るというのが私の持論です。

もうひとつは、遅刻を絶対許さない、時間に対する正確さを自他共に強制する、ものすごく窮屈な日本社会に対する違和感と嫌悪感を感じました。予定など思い通りに行かないのが世の中の常、人生の常なのに、日本では時間通りが当然であり、何事も時間通り、予定通りに金科玉条の如く遂行しなければならないと皆が思っており、そのためにこのアナウンスが必要なんだと思いました。私はこれを「洗脳」であると感じています。このアナウンスが続く限り、時間への正確さへの強制は続くでしょうね。日本人は時間への正確さが美徳であると思っっているようですが、そう思っているのは世界的に見るときわめて少数です。日本人は東南アジア人が時間を守らないと苦情をいいますが、実はタイを含めて東南アジア人は日本人が時間に几帳面すぎるといって苦情を言っています。雨が降ったら約束の時間にいけないのは当然である、自然には勝てないのに、日本人はそれを認めないからです。日本では近日常に疾病患者数では心療内科疾患が一番多くなると聞いておりますが、この時間への正確さが大きな理由だと思います。このままでは本当に日本人は病んでいるなんて他の国の方から言われそうで少なからず心配をしております。



(日本にだけある？けったいな証明書)

2. タクシー運転手に2回も騙された

今回の仕事では移動がかなりありスーツケース持参での移動だったので、タクシーを何度か乗りました。その際大阪と東京で乗ったタクシーにぼられ、騙されました。まず大阪のタクシーですが、運転手さんは年配の方で車にはナビゲーターが付いていませんでした。その上運転手さんは目的地を知らず、車を停めては地図を見るという運転をしておりました。最後は目的地近くをぐるぐる回りはじめ、メーターを止めて値段を確定させ、その後は無料で走って目的地を探してくれました。そしてその帰りに別のタクシーに乗って最初と同じ電車駅に戻ったところ、行く際に支払った値段の半分で済み、ぼられたことを知りました。この運転手さんはただ道を知らなかったのが結果こうなったということでしょうが、運転手が道を知らないのも問題ですが、ナビゲーターを付けさせないタクシー会社に文句がいたいですね（といってもすばらな私はそのタクシー会社の名前を覚えていませんが）。

東京では確信犯の運転手に、ある電車の駅から東大近くの目的地に行くように依頼したのですが、「ここが目的地だ」と嘘をつかれ赤門前で下ろされました。田舎者の私は日本のタクシーの運転手が嘘をつくわけないと信じていましたので、お礼を言ってタクシーを下り、タクシーが去った後道に迷い、目的地ではないところで下ろされたことを知りました。丁度下ろされた近くに交番があり親切な警察官に目的地を聞いたところ、1キロ弱違った場所に下ろされていました。多分行き先が近かったので運転手が嫌がって悪さをしたのでしょうか（980円を800円にまけたので何故かなーと思っていたのですが、途中で邪魔な荷物である私を落とすだけでした。笑）。

私はタイで日々タクシー運転手から乗車拒否にあい（タイでも乗車拒否はしてはいけませんものすごく多い）、メーターを使わないで言い値で交渉してくる運転手にメーターを使わせ、道を知らないくせに知ったかぶりする運転手の嘘を見抜き乗るタクシーを変えたりして対応しています。運転手はほとんどが田舎からの出稼ぎ者で道を知らない上に車にはナビゲーターが付いておらず、道を知らずぼったくられるのは私が悪いから、という感覚で乗っているので運転手との駆け引きには慣れていますが、今回、サービスがよく何かあったら消費者センターに苦情を言えばすぐ対応してもらえるお行儀のいい日本国のタクシーの運転手に、それも2度も騙されたというのは、私的には白昼に拳銃で狙撃されたのと同じくらい衝撃があり、今思うと結構面白い経験だったと、ネタに書いてみました。

ちなみに私の経験を元に東南アジア国で比べた場合、タイのタクシー運転手の評判は、インドネシア、ベトナムに比べても下だと思います。インドネシアでは特定タクシー会社グループ（ブルーバードグループ）のタクシーに乗れば全く問題は起こりませんし、ベトナムでも英語が通用しないことを除けばぼられたりしません。しかしタイの場合は政府が何度言っても運転手は乗車拒否し放題で、その上行き先を選ぶし、隙あれば外国人客からぼったくろうとする連中が減少しません。例えば観光地や夜の盛り場に停車して客を探しているタクシーはほぼ100%がメーターを倒さずに実際の料金の3-10倍吹っかけてきます。日本のタクシーがタイのようにならないことを心から祈願しております。

（タイのタクシー料金は日本の10分の1くらいなので、少しくらいぼっても許して上げる、と思ってしまうのがよくないのかもしれませんが。）



(メータータクシーとトゥクトゥクと呼ばれる三輪車タクシー。トゥクトゥクは交渉制のタクシーです。近距離はこっちの方が値段が高くなります。)

3. デフレと居酒屋の飲み放題パッケージディナー

私の日本出張中の食事ですが、朝食はコンビニでサンドウィッチとコーヒー、もしくはおにぎりに日清カップめんを購入しホテルの部屋で食べるというのがパターンで、二日酔いのため朝食抜き、というのもたまにあります。ランチは牛丼屋、ラーメン屋、喫茶店かレストランで軽く食べるか抜くか、夕食は顧客と一緒に主に居酒屋やそれに準じたところで食べます。今回食事の際に感じたことはデフレーションで食事の値段が安いこと。東京駅の下のコンビニではランチボックスが味噌汁つきで350円で売っていました。私が学生だったころ、ほかほか弁当の大関弁当というのが500円したはずなのですが、20年以上経ってそれを大きく下回っているのを見て、これでは経済がますます沈下して行くのではないかと本当に心配になります。ギリシャなどを見ていると緊縮財政は正道ですが、増税よりデフレ回避が一番優先的な課題のような気がしました。

夜の居酒屋では2時間飲み放題で〇〇円ぽっきり、というセットサービスを出しているところが多く、日本は本当にアルコールが安いな、すばらしいなと、酒飲みの私は嬉々としてお代わりを続けました。タイ国は外国から輸入するアルコールに高額な輸入税をかけており、ワインや日本酒が日本の値段の2倍以上、そしてその中でも信じられないのが焼酎でして、日本の値段の4倍以上になっておりますので、「(タイでは)高級酒」である焼酎を日頃より多めに飲んでしまいました。ただ面白くないのが、2時間ぽっきりというセットなので、酔い半ばでお店からおっぼり出されることでした。管理されるのが嫌いで海外に出ているので、2時間だけ、というような制約・ルールがある場合にすぐに反応してしまうのが、日本人性を失った私の癖かもしれません。もうひとつが、安いパッケージを提供しているのだから、すこしくらいサービスが悪くても我慢しろ、という態度が見え見えの、客を喜ばそうとしない店員の態度が不愉快でした。たぶん顧客満足より店の効率を優先するマニュアルがあるのでしょうね。

今回利用した一般のレストランでは気持ちのいい接客を受けていたのですが、〇〇時間ポッキリの飲み放題店だけで感じました。

バンコクでは、例えば屋台で食事をする場合、3軒隣の店から酒のつまみになる料理を注文し、2軒隣の店からは別の揚げ物を注文し、別の店からはこれまた別の品物を持ってきてもらい、そして座った屋台で3-4軒分の屋台の料理を食べる、ということが当たり前におこなわれているので、私の中では顧客の希望通りに店が合わすのがルールなのですが、日本の場合はどうも店に客が合わすのがルールのものでして、文化の違いを感じました。



(右手前で歩いている女性が時には4軒隣から食事を運んでくれます。)

4. 医療情報交換会への出席

今回の出張中の目玉で、海外で働く日本人の健康管理を担当されている、日本企業様、医療従事者様向けのセミナー&フォーラムに2度参加をさせて頂きました。主催者様達より「タイの医療事情とともに、弊院の紹介も(少し)させてあげるよ」、というお誘いを頂戴しましたので、何も考えずに飛びついてご出席させて頂きました。両日とも言いたいことはしっかり言えましたので気分よく出張を終えたと自己満足しておりました。そして、会が終わったあとの懇親会の席で、出席者の方達と名刺交換をさせて頂いた際、産業医と呼ばれるお医者様、保健師や看護師の医療従事者様たち、いわゆる医療のプロが30名以上もおられることに気がつき、医療従事者ではない私が、医療のプロ達に「お話」をしてしまったことで、心の中で非常に驚愕しておりました。一度に6名の方と次々に名刺交換をさせて頂いた時、全員の役職が「産業医」、だったのにはただただ「え?」「え?」という感じで本当に参ってしまいました。もちろん顔にはそれを出さずに、「医療機関の地域連携の国際版がこれからは必要だ」とか、「医療チームは毎年現地に視察に行くべきで、企業はそのコストをケチるべきではない」などなど、神をも恐れぬ暴挙は止まらなかったのですが、皆様優しい紳士・淑女の方達ばかりでしたので、笑ってお許し頂きました。

今回色々な方々と情報交換をさせて頂き感じたことですが、今後日本の企業がますます東南アジアの発展途上国に進出するようになり、コストの安い国=発展途上国=医療レベルが低い

=現地駐在員の危機管理能力と生存能力が問われる。医療に関してはタイ・バンコクがその搬送先として医療ハブになるということでした。

そして、私は自分に新しい宿題・課題が出来たと喜んでおります。それは何かと申しますと、世界で一番安全な国、そして世界で一番福祉医療が発達している国、日本から来られる日本人駐在員様たちへの生存術を伝授・啓蒙することです。海外で犯罪被害者救助や医療サポートの裏方で働いてきた目で見ますと、純粹培養されている日本人は世界で一番生存能力がない人種であると感じます。何故なら人を信じすぎるからです。日本では生活においてしてはいけないことはまずありませんが、海外では夜間に一人歩きすると襲われて身包み剥がされる可能性が高いのが常識です。また医療サービスは日本のように無料ではなくお金がないと治療してくれない国がほとんどです。無料の救急車などほとんどの国では存在しません。無菌状態の、赴任したばかりの日本人が屋台で食事すると食中毒になる可能性が高いので徐々に慣らす必要があります（多くの方は半年すれば鋼鉄の胃袋になりますが）。人前で財布を開けない、道を歩くときはバイクによる引ったくりを避けるためカバンを歩道側に持つ、引ったくりに遭ったら持っているカバンから手を離す（放さない引き摺られて大怪我をするから）、タクシーの乗り方（いい運転手と悪い運転所の見分け方、ぼられない方法）、などなどその国その国のルールがあり、日本のルールとはかけ離れていることが沢山あります。それをいかに早く習うかで、トラブルフリーで生活できるかそれともトラブルに直面するか、になるわけです。二十数年前、日本社会&文化からドロップアウトした私ではありますが、丁度同世代が駐在として東南アジアで活躍されているのを見まして、同輩の方達の役に立てればいいな一と思っております。



(日本のセミナー進行は5分も変わらずに粛々として進められていきます)

5. おまけ

去る11月4日バンコクにあるタイ日協会日本人学校で、運動会が開催されました。去年は歴史的な洪水で運動会がキャンセルされ、2年ぶりの運動会ということで生徒、保護者、学校関係者、先生などが一致団結しての、すばらしい運動会でした。私は来賓として呼ばれている院長の代行として本部テントの来賓席から観覧をさせていただきました。日本人学校は小学1年から中学3年まで9学年、2,750名の生徒がおり、応援に駆けつけるその父兄と合わせて、何と7千人以上がこの日学校に来られ声援を送ったこととなります。在タイ日本大使館へ登録しているバンコク滞在者日本人数が35,000人あまりなので、その20%が運動会に集った計算になります。

運動会の目玉の一つが、中学3年生全員による4クラス対抗リレーです。このリレーに教員&来賓連合チームが参戦し、5つのチームで皆トラックを半周します。教員&来賓連合チームは中学3年生には体力的に太刀打ちできず、お決まりのように毎年ビリになるのですが、今年は最後まで4位を争い、そして最後にやはりビリだったということでものすごく盛り上がりました。そのアンカーが校長先生だったので、結構健脚な校長先生の活躍が一番印象に残りました。



このニュースの目的は皆様と弊院（小職）の距離を少しでも近づけるために、且つ小職もそれを楽しむために海外ネタを中心に勝手に報告しております。そして真の狙いは一人でも多くの日本人を東南アジアファンにして、東南アジアに誘き出すことです。

内容や乱文など不愉快な思いをされましたらお許しください。勉強して行きたいと思います。

ご意見、ご提案、ご指導などを頂戴できましたら幸いです。

バンコク病院日本マーケット部 田中耕太郎 2012年11月06日



Tel. 1719